表現文化コース

表現文化コースとは

先生に聞いた！

表現文化コースでは、表現にかかわる様々な領域や素材を考察の対象として、学問的見地からとことん追究することができます。役者になるための発声法やマンガの作画法といった実技訓練を行なうコースではありませんが、実技について研究の視点から見るということはあります。また、地域の人たちと連携してキャンドルナイトを行なうといった、アーツマネジメントの授業もあります。スタッフでカバーできない分野については、外部から専門家の方に来てもらっています（例えば、アニメやマンガ、ファッション、ダンスなど）。詳しくは、表現文化コースのホームページを見てください。

野末先生の研究内容

私はおもにウォルター・ペイターという文学者について研究しています。それには、彼の生きた19世紀後半の英国の文化だけではなく、ギリシャ以来の西洋文化も視野に入れなくてはなりません。壮大な話ですね。彼を初めて知ったのは、予備校の夏季講習の英語で使われたテキストでした。風変わりな魅力は感じましたが、そのときは運命的な出会いというようなものではありませんでした（いま振り返ると、そうだったと思えるのですが）。それから大学での英語の授業で、彼の『ルネサンス』を取上げたものがあり、ゆっくり時間をかけて読んでいくうちに、その英文に感銘を受けるようになりました。いま読んでも、この思想と表現は凄いなと思うところと、謎めいていてよくわからないところとがあります。この両面が魅力ですね。今後の関心のひとつは、彼の影響を受けた人たちが彼にたいしてどう距離化をはかり、どうパロディーや風刺を行なっているかの検討です。

表現文化コース 教授
野末紀之（のずえのりゆき）先生

学問的見地からとことん追究する（野末先生）

表現文化コース3回生
尾上葉月（おがみはづき）さん

オススメの人

柳家喬太郎（やなぎやきょうたろう）（落語家）

ここ十数年、大きな関心を抱き、愛好している。人気者だが、落語ファンは別として、関西ではあまり知られていないはず。端正な古典、破天荒な新作、ともに聴かせる。狂気とチャーム（カワユサ）をあわせもつ。2012年夏、トリイ・ホール（難波）で聴いた「孫、帰る」には、心底、震えた。

オススメの人

スティーヴン・スピルバーグ

表現文化コースの専門授業で彼が監督した『未知との遭遇』の作品分析をしました。ただ単純に宇宙人との出会いが描かれているだけでなく、工夫された演出や撮影方法によって、「映画との出会いは理解できないものだ」ということをこの映像で示唆しているのでは？　ということを学び、そのような点がとても面白く感じました。

コースに入ったきっかけ

中学生のときにメディア関連の職業体験に行き、興味を持ったのが初めのきっかけです。その後メディアも学問になると知りました。メディアのことを学ぶなら社会学だろうと思っていましたが、市大のオープンキャンパスで表現文化コースの学びの内容を聞いて、メディアとしての表現のほうに興味を持ち、このコースに進みました。

学生から見たコース

漫画や音楽など様々な表現に触れる授業を通して、自分で考える力を身につけることができます。そのおかげで、表現文化コースの行事でアートに触れる旅行に行った際に、芸術の面白さを感じました。考える・見るといったことだけではなく、個性的な先生や学生とかかわることでまた新たな学びにつながっています。

卒論

▼レオ・レオニの絵本作品における個性表現
▼『千と千尋の神隠し』における「水」の役割
▼日中テレビ CM の変遷～携帯電話の CM から見えたもの～

表現文化コースにとって「流行」とは？

「流行」は表現文化コースとの親和性が高い。卒論で取上げられるのは、たいてい昨今はやりのもの。ただ、そのことが可能となった歴史的経緯や理論のいくつかは踏まえておいてほしい。表現文化コース的には、まず作品を挙げたい。ひとつはボードレールのエッセイ「現代生活の画家」。ある画家が都市の群集を棲家とし、はやりの衣装や装身具に目を凝らしつつ、冷たく熱狂しながら作品を制作するさまがスケッチされている。同時期のゾラの短篇「引き立て役」も面白い。街を闊歩する女性のために、お伴の不美人を「引き立て役」として用意する商売をめぐる滑稽かつ陰惨な話。これほど頻繁に「ブス」という不穏な（？）文字が出てくる作品は他にない。どちらの作も、「流行」が都市の文化（自己展示、他者からの凝視、商品社会）と不可分であることを示唆する。これに刺戟されたら、「流行」に関する理論的書物に手を延ばせばよい。上記二作品は『ボードレール批評 2』（ちくま学芸文庫）と『ゾラ 初期名作集』（藤原書店）で読める。（文・野末先生）

アジア都市文化学専攻

堀先生の研究内容

「境界の文学、文学の境界」というテーマを設定してやっています。一国文学史観を越えて、他国の人々と共感やリアリティを共有できる「普遍」的な日本の文学史や文化史って作れないものだろうか、というのが問題意識のはじまりでした。個々の社会から見落とされがちな「境界者」の存在に光をあてると、いままで見えていなかった歴史が鮮やかに浮かび上がります。それが面白くて。ちなみに、「境界」は、国家間や世紀、世代の狭間だけでなく、概念と概念、翻訳、人間の心の内側など、様々なところから見つけることができますよね。自分のなかにもある常識と非常識の境界、そんな身近なところを疑ってみることから異文化理解とか自分を知るということに繋がってくるんじゃないか、と思っています。

先生に聞いた！

アジア都市文化学専攻とは

このコースでは、「アジア」「文化」「都市」のキーワードをもち、領域横断的に複合領域的に、既成の枠にとらわれない自由で創造的な研究を行なっています。学問ジャンルとしては、「文化人類学」的なものをイメージしてもらえると、一番近いのかなと思います。文化や社会、生活様式やものの考え方、言語や文学、習慣や宗教、観光や芸術といった、社会や都市に見られる様々な姿を、とくにアジアという場所を中核にして総合的に研究しています。要するに守備領域は限りなく広いです。研究の方法も多様で、現地調査やフィールドワーク、社会分析や文献調査、資料発掘など、いろいろなんです。教員や院生たちの専門もキャラクターも実にユニークで、面白いですよ。

アジア都市文化学専攻 准教授
堀（ほり）まどか先生

オススメの人

ヨネ・ノグチ―日本語・英語の両言語で日本文化の特質を執筆して「世界的な日本詩人」として国内外で知られていた人物です。1945年の日本の敗戦後は忘却されました。なぜか。世の中には、時代の潮流や国際政治の状況、一国史観によって、埋没する存在、沈黙を強いられている事象が数多く存在します。文献や歴史を片目で眺めながら、もう片方の目では、「今」を見据え「未来」を考える、ということを意識したいですね。

アジア都市文化学専攻にとって「流行」とは？

私は、世の中の「流行」には疎い人間です。でも、「社会的ブーム＝お金になりそう＝これこそが時代の最先端だ！」なんて思えるものを今あわてて追いかけるよりも、それを尻目に別の道を歩む、あるいは流行に逆行して進むほうが、普遍性を持つ斬新さに近づくんじゃないかという気がしています。たとえ普遍性は持たなかったにせよ、将来の流行に繋がるかもしれない。なにごとも〈盛者必衰の理〉を表しますから、先のことはわかりません。「未知数」って大好きです。要するに、世間一般の「流行」に一喜一憂するより、自分のなかで独自の「流行」を持って密かに没頭しているほうが面白いと思います。「文学部」的にいえば、「不易流行」でしょうか。これは芭蕉が語る俳諧の理論です。新しさをもとめて変化する「流行」と、時代を超越して不変なる「不易」とは、根源的に一つである、という意味だろうと私は理解しています。こういった理念や概念については、テキストの読みかたによってニュアンスの異なる解説を見いだしうるので、みなさんもぜひ、「不易流行」の本質を考えてみてくださいね。（文・堀先生）

資格

教職

山田（やまだ） 亜美（あみ）さん
教育学コース 4回生

Q. なぜ教員免許を取ろうと思ったのですか？

A. 教員になるかどうかは決め兼ねていましたが、もともと教育に興味があったので教員免許を取ろうと思いました。教職の授業はコースの学びにも繋がっており、有意義なものでした。今は高校の国語の教員を目指しています。

Q. 教育実習ではどのようなことを行ないましたか？

A. 現代文と古文の授業を合わせて十数回ほど担当させていただきました。また、ホームルーム活動や行事に参加しました。生徒だった頃とは異なる視点から教育活動を捉え直すことで、新たな気づきを得ることができました。

文学部で取得可能な資格
◎中学校教諭一種免許状（社会・国語・中国語・英語・ドイツ語・フランス語）
◎高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民・国語・中国語・英語・ドイツ語・フランス語）
◎博物館学芸員資格
※コースによっては、社会調査士、認定心理士、地域調査士などの資格も取得可能。

学芸員

藤岡（ふじおか） 琢矢（たくや）さん
日本史コース 4回生

Q. なぜ学芸員資格を取ろうと思ったのですか？

A. 現在日本史コースに所属していて歴史学の研究をしています。今後も歴史学に携われる職業に就きたいと考えていたところ、学芸員として専門的な研究を続けられる道もあると思い、学芸員資格を取得しました。

Q. 実習ではどのようなことを行ないましたか？

A. 博物館実習Ⅰでは、自分たちで内容・構成を考え、学内で展示を行ないました。博物館実習Ⅱでは、実際に博物館に行き、学芸員の仕事を体験できました。実践的な実習で学芸員に必要な知識が身についたと思います。

副専攻とは？

副専攻とは、全学共通のプログラムで、修了することにより、所属学部の学士号（文学部なら「文学」）以外の専門を修めたと認定されるコースです。現在、外国語に特化したグローバルコミュニケーション（GC）と地域社会の問題に取り組むコミュニティ再生（CR）副専攻があります。